

群 教 セ	G11 - 02
	平14.206集

望ましい勤労観を育成するための 指導の工夫

－ 「働く」に視点を当てた職場体験学習の
事前・事後の学習活動を通して －

特別研修員 茂木 秀明

《研究の概要》

本研究は、職場体験学習の事前と事後の活動を工夫することにより、進路指導の課題である望ましい勤労観の育成ができることを実践を通して明らかにしようとしたものである。事前の活動でなぜ人は働くのか意識調査を行い、働くということに視点を当て職場体験学習で何を学んでくるのか目当てを考える活動を行い目的意識を明確に持って職場体験学習に臨み、事後の活動で価値の共有化を図るため学んだことの振り返り活動を行った。

【キーワード：進路指導 中学校 職場体験学習 勤労観 職業観】

主題設定の理由

働くということに対する生徒たちの意識はまだ低く、もっと先のことだと考える傾向にある。また、生徒たち自身の小さい頃からの勤労体験も乏しく、そのため生徒たちの職業に対する考えは浅く、仕事をするのはただ単にお金をもらい生活をしていくためだと考えているものもいる。

本校では例年第二学年の10月に職場体験学習を実施している。第二学年のこの時期に職場体験学習を行うことにより、今まで進路学習で学んできたことに具体性・現実性を与えることができるとともに、働くということに対する関心を一層高めることができ、自分の将来の職業や生き方を真剣に考えていくことができるようになると思われる。そのため、この時期に望ましい職業観・勤労観を育てることは進路指導上重要な課題であるといえる。

しかし、現実には職場体験学習を実施するにあたり、希望した職場に受け入れを断られたり、希望した職業の事業所が近辺の地域になかったりしたために取り組む意欲が極端に落ちてしまい、体験を有効なものとするのができない生徒もいる。また、職場体験学習で希望する職種に関してはファーストフードやファミリーレストランなど自分が高校へ行ってからアルバイトとしてやってみたいと考えている華やかな事業所での体験を希望するものも増えてきている。

このような生徒たちに対して職場体験学習を実施するにあたり、その目的と自分が何を学んでくるかということを考えていくことは重要なことであり、事前・事後で働くということに視点を当てた学習活動を行い、職場体験学習をより有効な体験とするとともに、体験で学んだことを今後の生活に結びつけていくことができるようにしたいと考えた。

そこで、事前の活動で、なぜ人は働くのかを考える活動や職場体験学習に向けて目当てを設定していく活動を行い、職場での体験で働くことの大変さやすごさなどを学ぶことができるよう目的意識を明確にし、さらに、事後の活動でワークショップを行い、働くことに対しての価値の共有化を図り、学んだことを将来に結びつけていくためにどういった姿勢で毎日を過ごしていったらいいかを考える活動を通して、生徒に望ましい勤労観を育成していこうと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

職場体験学習の事前の活動で、職場体験学習で何を学ぶかを考え、目当てを設定する活動を通して目的意識を持って職場体験学習に臨み、事後の活動で、学んできたことの振り返り活動を行い共有化することで、望ましい勤労観を育成することができるということを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

職場体験学習の事前・事後の活動において、以下のような学習の取り組みをすれば、職場体験学習に目的意識を持って臨むことができ、望ましい勤労観を育成することができるであろう。

- 1 学習活動1の「なぜ人は働くのか考えてみよう！」において、働く目的と意義の意識調査結果をもとに生徒と保護者の意識の違いを比較し、人は何のために働くのかを考える活動を行えば、人が働くのはただ単に収入のためだけではなく、様々な目的や意義があるということに気付くであろう。
- 2 学習活動2の「働く人のここに注目！」(職場体験学習に向けての目当てを考えよう)において、実際の職場体験学習で職場の人のどんな所に目を向け、どんな姿勢で臨むのがよいかをクイズ形式で考えていく活動を行えば、職場体験学習に向けて自分なりの思いを持って目当てを設定することができるであろう。
- 3 学習活動3の「働くって ！」において、職場での体験をもとに「働くって 」の中に入る言葉を考えワークショップを行い、体験や学んだことを報告し合いながら、働くということに対する価値の共有化を図れば、働くことの価値を理解し、さらに「これからの私は 」に入る言葉を考える活動を通して、学んだことをこれからの生活に結びつけようとするのであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「望ましい勤労観を持った生徒」とは

生徒たちが考えているように、働くということには、それで得た収入により生活の維持や向上を図るという目的がある。しかし、それ以外にも一人一人が集団や社会を支えているという面や自己の存在感や物事を成し遂げる成就感を得ることもでき、それが生きがいや喜びにつながってくる。職場体験学習を通して働くことの大変さに触れ、プロとしてのこだわりや行動を目にすることにより、働く人のすごさに触れ、そこで学んだことを自分の将来やこれからの生活に結びつけようとしている生徒を「望ましい勤労観を持った生徒」と考えた。

(2) 職場体験学習に向けた「目当て」の設定について

本校では三年前から総合的な学習の時間の中に職場体験学習が位置づけられるようになった。第二学年では「生き方学習」という内容を扱っており、その中の「社会を知る」「自分を知る」という二本柱の一つ「社会を知る」の中心的な活動として職場体験学習を行っている。本研究では職場体験学習に向けて事前活動で、ただ単に職場の人に対して迷惑をかけないように体験を行うというだけではなく、学習活動2の「働く人のここに注目！」(職場体験学習

に向けて目当てを考えよう)で、職場の人のどんな所に注目してみたら働く人の姿勢がわかるかを昨年度の生徒の感想をもとに制作した職場体験学習クイズ(資料1)を通して考えていく。

この職場体験学習クイズは、昨年度の職場での体験の様子を撮影した画像や昨年度職場体験学習を行った生徒が働く人のどんな所に「すごいな」と感じたかを職種ごとに出题し、職場体験へ向けてのアドバイスを語ったVTRをプレゼンテーションソフトでまとめたものである。そのクイズを活用し、これから行う自分の職場での体験をイメージし、働く人たちの姿勢はどんな所からうかがえるのか、自分たちが職場に行ったときにどんな所に目を向けていけばいいのか、実際に体験をするときどんな姿勢で臨んだら「働くってこういうことなんだな」ということが体感できるのかを考える。その上で、職場体験学習で自分が働くということについて何を学びたいかということを考え「目当て」を設定していく活動を行う。それにより実際の体験で現実に触れたときに職場で働くことの大変さや職場で働く人たちのすごさを学ぶことができるであろうと考えた。

資料1 「職場体験学習クイズ」

第二問
私がレストランで働いている人に対して「すごいな」と思ったことはどんなことでしょうか？



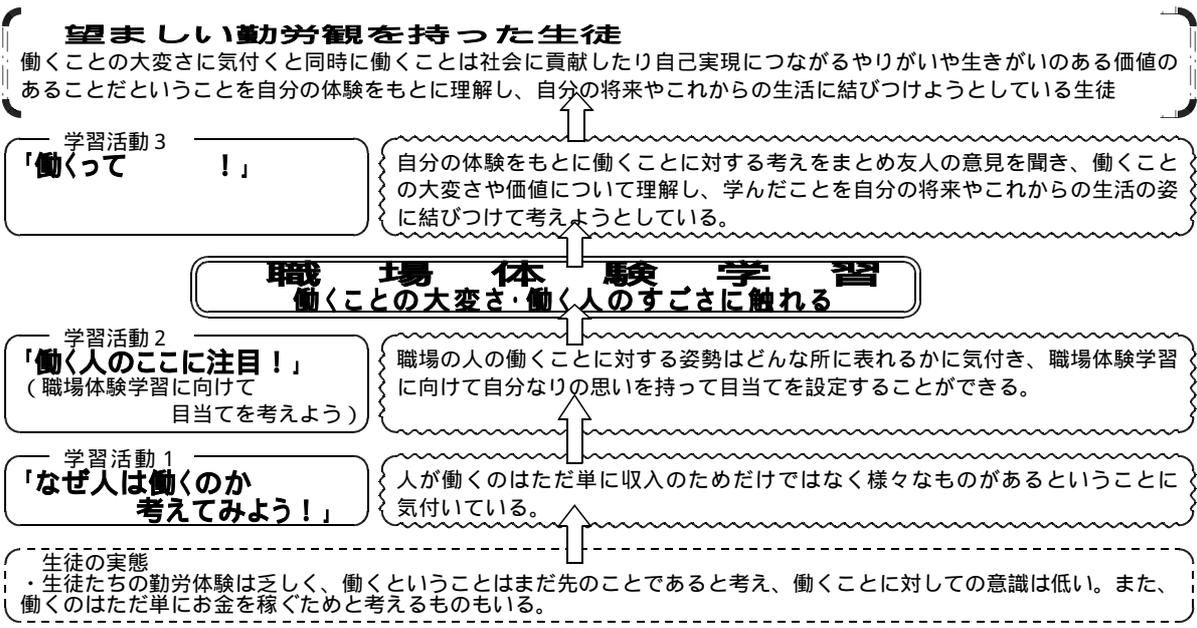
① お客様に対する挨拶
② お皿を一つの手で10枚も持つわざ
③ 重たい食器を持ってお店の中をひたすら歩き回る体力

(3) 職場体験学習における「働くということに対する価値の共有化」

職場体験学習でどんな内容の体験をしてきたかということに重きを置くのではなく、体験を通して何を学んできたかということに注目したいと考えた。そこで、学習活動3の「働くって！」において、実際の職場体験学習で目にした働く人のこだわりやすごさ、「働く」ということに対して体感してきたことをワークショップの活動で報告し合い、働くことの目的や意義をまとめることを通して「働くということに対する価値の共有化」を図りたいと考えた。

(4) 全体構想図

本校の進路指導の目標 「自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができる生徒を育成する。」		
第一学年	第二学年	第三学年
自己をよく理解し、将来の進路について興味・関心を高め、進んで自己の進路を計画しようとする態度を養う。	自己理解を深め、上級学校や職業などに関する進路情報を理解し、一層明確な進路の希望や計画を持つとともに自分自身でその計画を吟味し実現しようとする態度を養う。	自己の特性を把握し、希望する進路情報を確認し、自分にふさわしい職業や学校などを選択するとともに、その進路に適応し、向上していこうとする態度を養う。



2 実践の概要及び結果と考察

考察にあたっては、学級全体と抽出生徒A子のアンケートやワークシートへの記述、また授業での発言内容を中心に行った。甘いものが好きなA子は姉が以前働いていた職場で自分も同じように働いてみたいと考え、御菓子屋での職場体験学習を希望した。

(1) 人が働くのはただ単に収入のためだけではなく様々なものがあるということに気付いたか。(見通し1)

ア 実践の概要

職業の三要素をふまえた働く目的と意義の意識調査アンケートを生徒と保護者を対象に実施した。その結果を比較し、人は何のために働くのかを考える活動を展開した。さらに三要素に関して生徒の身近な所で働いている大人がなぜ働いているのかを語っているビデオを視聴し感想をまとめた。

イ 結果と考察

生徒の意識調査の結果、人が働くのは「毎日を生き生きと生活するため」が最も重要であると答えたものが一番多かった。ついで「可能性に挑戦」「安定した収入で趣味などに生きる」「困っている人を助ける」「社会に貢献」「高収入・地位・名誉」の順であった。授業の最後に記入した感想では、「生活のために働くのは大切だが、収入の他にもいいことがあるみたいだ」「仕事といっても稼ぐだけでなく色々なことができるんだな」という言葉が見られた。

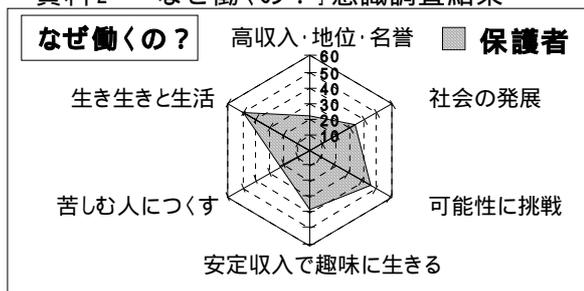
A子が最も重要と答えたものは「高収入・地位・名誉」であり、余り重要視せず最後に選んだ答えは「毎日を生き生きと生活するため」であった。このことから人が働くのはお金を稼ぐためと考え、生きがいややりがいを余り重視していないことがうかがえる。班の中での話し合いの中では「自分の可能性に挑戦するため」という意見を持ったものが多く、自分との考えの違いに驚きを覚えたという。また保護者のアンケート結果(資料2)でも一番重要とされた答えが「毎日を生き生きと生活するため」という自分とは反対の結果であり、友人や大人の働くことに対する意見を聞き、授業で使用したワークシートの感想(資料3)では「自分ももっと仕事のことにについて考えていきたい」と述べていた。このことからA子は人が働くのはただ単に収入のために働くのではなく、色々な考えがあるのだということに気付くことができたといえる。

(2) 働く人たちの姿勢はどんな所に表れるか気付き、職場体験学習に向けて自分なりの思いを持って目当てを設定することができたか。(見通し2)

ア 実践の概要

前時の学習で人が働くのはお金のためだけではないということを生徒に教えた。実際の職場の人のどんな所を注目してみたら働く人の姿勢がわかるのかを考えることができるように、昨年度の生徒の感想をもとに作成した職場体験学習クイズを行った。その中で働く人たちの姿勢はどんな所からうかがえるのか、自分たちが職場に行ったときにどんな所に目を向けていけ

資料2 「なぜ働くの？」意識調査結果



資料3 A子のワークシート

理由	理由
高収入・地位・名誉	生き生きと生活
社会の発展	可能性に挑戦
安定収入で趣味に生きる	苦しむ人につくす

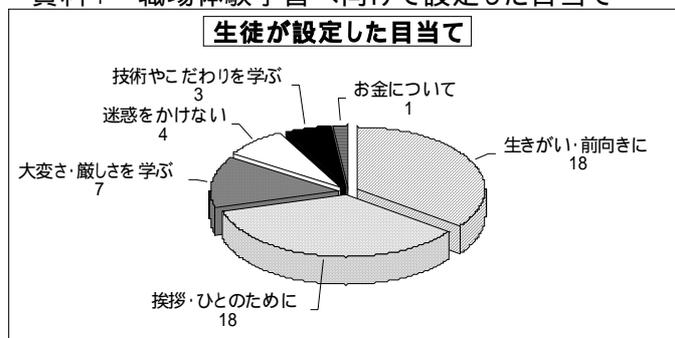
ドーナツ

ばいいのか、実際に体験をするときどんな姿勢で臨んだら働かってこういうことなんだなということが体感できるかを考えた。そして、職場体験学習にどんな目当てを持って臨むかを考え発表した。

イ 結果と考察

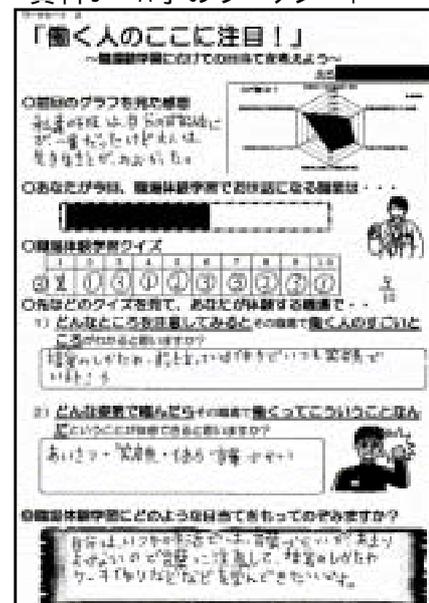
職場体験学習クイズを実施した結果、働く人のどんな所を見たらすごさわかるかという問いに対して「お客様に対する笑顔やあいさつ」「園児のためを考えた声かけや行動」といったように、気持ちよく買い物をしてもらいたい、人のために役に立ちたいといった社会性に目を向けた生徒や、「作業をするときの集中力」「食べ物を作るときの手際のよさ」などのこだわりにも目を向けた生徒もいた。どんな姿勢で臨んだら働かってこういうことなんだなということが体感できるかという問いに対しては「お客や園児のためにつくそうという姿勢」「真剣に集中力を持って臨む」という答えが多く出された。また、職場体験学習に向けて設定した目当ては「お客さんとのコミュニケーションを大切に気付いたことを積極的にしていきたい」「本当に楽しんで仕事をしているのかを見てきたい」「働く人はどのような思いで何を心がけて常に仕事をしているのかを見てくる」「お金を稼ぐことの大変さを実感してくる」といったもの（資料4）が挙げられた。

資料4 職場体験学習へ向けに設定した目当て



A子は御菓子屋で働く人のどんな所を見たらすごさわかるかという問いに対して「お客様に対する笑顔や、接客の仕方、ずっと作業をしているときに立っている体力」と答えている。また、どんな姿勢で体験に臨むと働かってこういうことなんだなということが体感できるかという問いに対しては「あいさつや笑顔を大切に、言葉遣いに注意すること」を挙げている（資料5）。

資料5 A子のワークシート



クイズ終了後、今回の職場体験学習に対しては「自分は普段の生活の中では言葉遣いが余りよくないので言葉遣いに充分注意して接客の仕方やケーキ作りを学んできたい。」という目当てを設定した。このことから単に甘いものが好きという理由で選んだ御菓子屋ではあるが、A子は働くという視点から今回の職場体験学習で自分は何を学んでくるのかということを考え、「接客とケーキ作り」に関して学んでこようというA子なりの思いを持って目当てを設定することができたといえる。

(3) 自分の体験をもとに働くことに対する考えをまとめ友人の意見を聞き、働くことの大変さや働くこと価値を理解し、自分のこれからは結びつけようとする事ができたか。（見直し3）

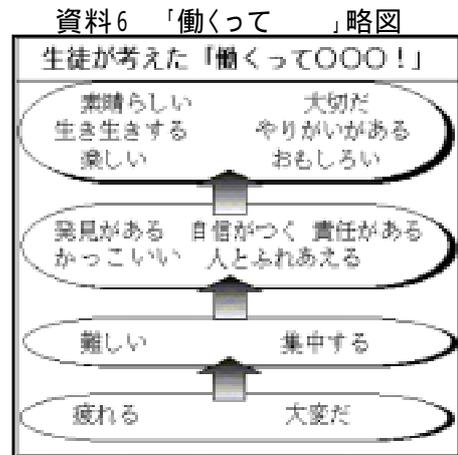
ア 実践の概要

職場体験学習での体験をもとに「働かって」の中に入る言葉を考えカードに記入した。ワークショップで職場体験学習での体験や職場で見つけた働く人のこだわりやすごさに関して気付いたこと、「働かって」に入った言葉をインタビューで答える活動や、それぞれが記入した「働かって」のカードをグループ分けし模造紙にまとめる活動を行い、体験で得た働くことに対しての価値の共有化を図った。ま

た、当番や係・委員会の仕事などのビデオを視聴し毎日の学校生活の中でも自分たちが働いていることに気付き、さらに「これからの私は」に入る言葉を考える活動を通して今回の職場体験学習や事前・事後の活動で学んだことを今後自分の将来に結びつけていくためにどういった姿勢で毎日を過ごしていったらいいかを考えた。

イ 結果と考察

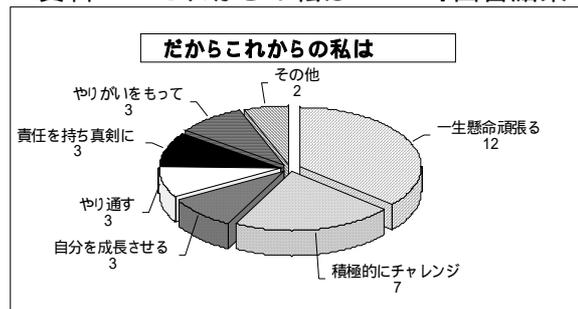
「働くって」の中に入る言葉は「大変だ」「疲れる」「楽しい」といった言葉を当てはめた生徒が多かった。「大変だ」という言葉を入れた理由としては「辛い・疲れる」というものだけではなく「この仕事に就くには資格を取るだけではなく修業を積まないと一人前になれないから」という発言もあった。学級の「働くって」に入った言葉をグループにまとめ関係順に並べた結果、「大変」で「疲れる」ことだが、「難しい」ことをやりとげようと「集中」しやりとげたときに「やりがい」「楽しさ」を感じるという図が（資料6）できあがった。



授業の最後の感想には「働くのは人のために何かをすることだ」「体験を通して働くということに対して胸を張って意見が出来る」「仕事は大変で難しいけどやりがいがあって自分に自信が持てた」「大変だったけど仕事を終えたときの達成感はたまらないものがあった」と述べていた。

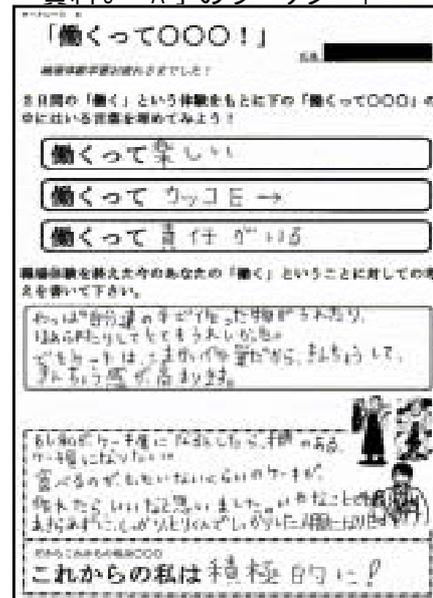
「だからこれからの私は」の中には「色々なことにチャレンジを」「一日一日を無駄なく一生懸命頑張る」「責任を持ち真剣に」「やりがいを持って取り組み自信をつける」といった言葉が入った（資料7）。

資料7 「これからの私は」回答結果



A子は「働くって」の中に「楽しい」「かっこいい」「責任がある」という三つの言葉を当てはめた。「楽しい」という言葉を当てはめた理由は「自分の手で作った御菓子が実際にお客さんにお金を払って買ってもらえたこと、

資料8 A子のワークシート



お店の人やお客さんに誉められたことがとてもうれしかった」ということを挙げている。また、「かっこいい」と答えた理由は「白い調理服をびしょと着てお店の人が真剣に御菓子作りに取り組む姿に感動した」ということを、「責任がある」と答えたのは「実際に自分が作った御菓子をお客さんが口に入れるので、そのことを考えて御菓子を作ったとき、とても自分自身に責任を感じた」ということを挙げている。このことからA子は職場体験学習で働くことの喜びやこだわり・責任感に触れ、働くことは人のためにも自分のためにもなることだということに気付いたといえよう。ワークショップの中で同じクラスの生徒の「働くって」ということに対する意見を聞き、もし自分が将来御菓子屋になるとしたら「才能のある御菓子屋になりたい、食べるのがもったいないくらいのカッキーが作れたらいいなと思う」と答えた（資料8）。

そのためにも「もっと自分もいや

なことでもあきらめずにしっかりと取り組んで、しっかりした人間になりたい」と考え、「これからの私は」には、「積極的に！」という言葉当てはめた。

以上のことからA子は、以前は働くことに対して単にお金を稼ぐためというイメージでとらえ、職場体験学習の事業所もケーキが好きという理由で御菓子屋を選択したが、事前の学習活動を通して自分なりの目当てを設定し、職場体験学習へ臨むことができたといえる。さらに、実際の職場での体験と事後の活動を通して、働くということは社会性ややりがいといった意味もあることに気付き、自分なりの働くということに対する考えを述べ、学んだことをこれからの生活に生かしていこうとすることもできたといえる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

なぜ人は働くのかという意識調査アンケートを生徒と保護者を対象に実施した結果を比較し、人は何のために働くのかを考える活動を行ったことにより、生徒たちが働くことの意義や目的には様々なものがあるということに気付くことができた。

職場体験学習クイズをヒントに職場体験学習に向けてどんな目当てで臨むかを考える活動を行った結果、生徒たちが働くという視点で目当てを設定することができ効果的であったといえる。

職場体験学習での体験をもとに「働くって」の中に入る言葉を考え働くということに対しての価値の共有化を図ったことにより、生徒たちの働くことの目的や意義に対する深まりが見え手段として有効であったといえる。

2 今後の課題

生徒たちの多くは「やりがい」「生き生き」という個人性を意識して職場体験学習に臨むことができたが、さらに職場での体験を有効なものにするため社会性にも目が行くような手だての工夫が今後必要と思われる。

< 主な参考文献 >

- ・『研究報告題 174 集【長期研修員】』 群馬県総合教育センター出版（1997）